

No. 400【2020年4月3日配信】

大正時代に行われた「野球優勝旗大会」(担当:工藤)

こんにちは! 室長の工藤です。
あおり歴史トリビア8年目のスタートは、ちょうど400号の節目となりました。

前回予告しましたように、今回は大正2年(1913)8月24~26日、9月1日の4日間で開催の、東奥日報社主催「野球優勝旗大会」を紹介します。

当初、この大会は学校の校友会に所属する、現在で言う「野球部」が参加する大会として企画され、青森中学校、弘前中学校、青森商業学校、畜産学校(現三本木農業高校)などの参加申し込みがあった一方、八戸中学校の校友会が参加辞退を申し入れたのでした。理由は、6月まで知事を務めていた県知事武田千代三郎の「内訓」にありました。この内訓の具体的な内容は分かりませんが、新聞が報じるところでは、①学校間の対抗試合の禁止、②優勝旗やメダルは内訓が禁止する寄附行為に当たるといいます。ただ、参加予定のすべての学校長がこれを把握していたという訳でもなく、実際、8月5日に青森中学と弘前中学との間で、柔道と野球の対抗戦が開催されてもいました。しかも、知事は武田知事から田中武雄知事に代っていただいたのです。しかし、八戸中学校の校長に判断を一任し、すべての学校が不参加となりました。



武田千代三郎
(『青森市史』別冊人物編))

そこで、大会は学校ではなくクラブチームの対抗戦となり、優勝チームには三越呉服店に注文してある優勝旗が授与されることになったのです。優勝旗は優勝チームが1年間持つことができ、翌年返納されるのです。参加したのは甲田倶楽部、奥南倶楽部、ローヤル倶楽部、鉄腕倶楽部二部、不定数倶楽部、老球倶楽部の6クラブで、甲田と鉄腕には青森中学校の現役生が入っている可能性があります。

さて、大会初日は冒頭で、東奥日報社社長による始球式が行われています。^{こうかん}巷間伝えられるところでは、明治41年(1908)11月2日、アメリカ選抜チームと早稲田大学野球部との親善試合で、同大学の総長大隈重信が投じた一球が日本で最初の始球式だといわれています。一方、今回の始球式は「始球式は地方に於ては今回を以て^{こうし}嚆矢とすべし」と報じられています。

大会の方は、奥南倶楽部が戦わずして八戸に帰ってしまったり、決勝戦が雨で順延になったりしましたが、会場となった造道の陸軍歩兵第五連隊の練兵場には多くの観戦客が集まりました。決勝の甲田倶楽部と老球倶楽部の一戦は11対1で甲田の大勝。試合後、青森中学校で行われた「賞品贈呈式」では甲田倶楽部に優勝旗とメダルが授与され、各チームの優秀打者5名にバット、優秀選手3名にはメダルが授与されました。

こうして第1回目の大会は終了し、翌年の第2回大会では甲田倶楽部が2連覇を果たしました。